商工かほく 1

平成30年1月
第78号

URL　http://kahoku.biz/

いい風 いい夢 かほく

〈編集・発行〉かほく市商工会　かほく市高松ク42番地1
TEL 076-282-5661　FAX 076-282-5663

新年のごあいさつ

かほく市商工会
会長　小山良一

新年明けましておめでとうございます。
皆様におかれましては健やかに新春を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

旧年中は商工会の運営に際して、格別にご支援、ご協力を賜りましたこと心より御礼を申し上げます。

我が国の経済は緩やかな上昇基調にあり、石川県もその先頭に位置付けられるほどの景況感であります。商工会地域の景況は業種や規模に大きな違いがあり、製造業、建設業などで人手不足の状況が見受けられます。

そのような中で、従来の経営改善普及事業をはじめ持続化補助金、ものづくり補助金、活性化ファンドなどを推進し、経営発達支援事業と合わせて取り組み、会員事業者がさらに元気になるよう持続的な応援をしていきたいと考えております。

また、かほく市との連携をより緊密に図りつつ商工会員、市民の皆様の応援を力にしてかほく市の活性化の一助になるように活動をしていきたいと考えております。より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新しい年が皆様にとりまして、明るいよい年になりますとともに会員企業の発展をご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

目 次

P2.3	明日へチャレンジ 事業継承セミナー／経営力アップ講座
P4	新春特別講演会／あったか雑炊･鍋まつり 傷害共済について
P5	石川県商工会大会表彰／商業部会視察研修 建設部会視察研修／繊維部会視察研修 金融審査委員会視察研修
P6	ジャパンクリエーション2018 確定申告会場の開設日／経営講演会 青年部視察研修／高松小学2年社会見学 河北森本広域商工会工業振興研修会
P7	事業計画作成セミナー 確定申告個別指導日程表 10月号読者プレゼント当選者発表 かにカニ合戦当選者発表
P8	事業所紹介／お知らせ 読者プレゼント応募券／編集後記

明日へ
チャレンジ

●企業名　㈱A・S・K
かほく市高松ヤ26-7
☎076-281-0707
●資本金　10万円　●雇用従業員　11名
●代表者　中田　武志 氏(45歳)
●創　業　2011年8月
●業　種　障がい者就労支援事業
●取　材　広報委員　岡田　等　オカダ合金㈱

かほく市内の企業をシリーズで紹介しています。今月は、障害者就労継続支援B型事業所を開設し、就労支援者の自立の促進と事業拡大に日々尽力している企業を紹介します。

㈱A・S・K
代表取締役
中田　武志 氏

岡田　本日は大変お忙しいところお時間をとって頂いて、誠にありがとうございます。広報委員を担当しております岡田と言います。どうぞよろしくお願い致します。

中田　こちらこそよろしくお願い致します。

岡田　早速ですが今回の取材に当たって、なんの前知識がないままお話をお伺いすることになりますが、貴社はどのような仕事をされていますか。

中田　弊社は障がいのある方の就労を支援する仕事をさせて頂いております。国の規定では障がい者支援には障害者就労継続支援A型事業所と障害者就労継続支援B型事業所があり、そのうちかほく市の事業所ではB型事業所を経営しております。

岡田　この障害者就労継続支援B型事業所とはどのようなところですか。

中田　賃金で説明すると理解し易く、B型事業所の賃金は出来高払いとなります。例えば割箸を袋に入れ箱詰めする作業で割箸1本1円としたならば、1日に2,000本を袋に詰めると2,000円の賃金を支払います。それに対し、A型事業所は事業所と就労支援者とが雇用関係を結び、時給として賃金を支払います。このように賃金が「出来高払なのか」「時給払なのか」の違いがあります。

岡田　わかりました。貴社をどのような方が利用されますか。

中田　はい。例えば高松病院などへ通所されている方々です。自立訓練（生活訓練）をされている事業所や相談支援事業所等とタッグを組み、弊社を利用されたい方の受入を行っています。受入された障がいのある方たちは事業所で作業を行います。その彼等の仕事は主に地元の基幹産業である繊維企業の内職の作業です。他にも全日本空輸㈱（以下、全日空）の本社やその関連会社である全日空商事㈱（以下、全日空商事）の請負業務で、飛行機内の箸とスプーン、フォークのセットを袋詰めしております。

岡田　障がい者就労支援施設に対し、全日空等が発注するということはCSR（企業の社会的責任）の一環でしょうか。

中田　弊社は福祉施設ではありますが、いち企業として請負業務の依頼を頂いていますので直接のCSRとは少し違うかもしれません。しかし、障がい者を就労支援するサービスに関しては、地域の社会福祉協議会や他の就労支援施設さんたちとは密接な連携をさせて頂いております。

岡田　そうなんですね。しかし、そのような大企業の仕事だと厳しい品質要求等、気苦労も多いのではないですか。

中田　全日空の本社から担当職員が任された仕事を本当に正確に行っているか、弊社の作業員の仕事ぶりを視察に来ます。その理由は、飛行機内でお客様に「この箸やスプーン、フォークは何処でどのように作られたものですか」とキャビンアテンダントが尋ねられたとき、彼女達がスムーズに答えることができるように、わざわざ東京から石川のこのようなところまで視察にやってきます。

岡田　キャビンアテンダントの教育のためにそこまでするとは流石高い顧客満足度を誇る全日空ですね。

中田　先日も、全日空商事の担当者が調査に来られました。全日空の機内食等で使用するフォークとナイフのセットの袋詰め、箱詰め、出荷までの一連の作業を請負っており、弊社の作業員がマニュアル化された作業手順で正確に仕事をしているかどうか検品及び調査の目的で来られました。

岡田　よほど信頼関係がなければこのような大企業が発注するとは思われませんが。

中田　一般の人は障害者就労継続支援B型事業所というと「難しい仕事はできないのではないか」と不安になると思いますが、そうだからと言って何もしないで簡単な仕事だけをするのでは弊社も障がいを持った方もなんの進歩もありません。弊社では頂ける仕事は余程困難なものでない限り全て責任をもってやるようにしています。その積み重ねが「信用」と「信頼」の蓄積となり、大企業から注文を受けるきっかけになったのではないかと思っています。箸、スプーン、フォークの一連の作業に関しては8割方弊社がさせて頂いております。しかし、弊社は大企業のみならず多くのお客様との信頼関係を築くために努力しております。大企業の仕事は全体の三割程度で、主なものはやはり地元企業からの仕事です。なにより小回りが利きますから「地元基幹産業と一緒にやっている」というコンセプトを最優先にしています。

岡田　素晴らしいお考えですね。ところで、なぜこのような事業をするようになったのですか。

中田　㈱A・S・Kの前身は内職系の請負仕事で、主な取引先は繊維業、ゴム紐を巻いて袋に入れる作業や生地をカットする加工の作業をしていました。そのような作業内容から社会的弱者と呼ばれる障がいのある方たちにも提供できる作業ではないかと思い、彼等を支援する施設にしようということで平成23年11月にかほく市に事業所を開所しました。

岡田　発想が革新的で即実行に移すとは行動的ですね。

中田　その当時私は別会社の社員で、その会社がイベント等のノベルティグッズを扱っており、㈱A・S・Kに作業を発注する側の取引会社でした。営業で出入りしているうちに、㈱A・S・Kの事業が拡大し、中能登にも進出し事業所を設立する等で前社長が多忙となったことが理由で、2017年1月に前社長から引き継ぎ、私が社長になりました。

岡田　そうなんですか。ドラマチックなご縁ですね。中能登にも事業所があるのですか。

中田　はい。ここの設立には大変苦労しました。廃校した小学校を利用して事業を起こそうとしましたが、軌道に乗せるまで1年を費やしました。町役場や県の認可が

下りたにも関わらず、最終決断の場になって文部科学省の認可が下りず、従業員を雇用した手前、学校周辺の空き家で1年間も事業を行い、平成28年8月にようやく校舎に入れて、本格的な操業開始までに至りました。苦労の甲斐があって12月からは中能登地区の事業所も廃校を利用することになりました。この廃校は土地や建物を中能登町が10年間無償貸与してくれる利点があり、今後は廃校を利用する事業所との連携も視野に入れており、中能登町の雇用促進につながり貢献できたと思っています。

岡田　かほく市と中能登町の両方を管理するとなると大変ですね。

中田　中能登町には施設長がおり安心して任せています。廃校にはまだ空いている教室もあり、将来的には企業同士がタッグを組み生産から加工、商品化までの一貫した仕事を作業員が離れたところにある工場へ移動することなく、その施設だけで全て出来るようにすることです。廃校を障がい者就労支援事業のみで活用する事例は全国的にも希なことなので遣り甲斐を感じております。

岡田　事業が拡大すると障がい者就労者を支援する従業員も福祉関係の資格が必要となって大変ですね。

中田　ところが弊社では福祉関係に従事していた資格保持者は少なく、ほとんどが一般企業の経験者です。それでも何の問題もありません。一般企業の経験者の方が作業の現場を熟知しており、支援者を自立まで成長させるには有利です。日頃、従業員には「人間、何の目的で働くのか。お金も大切だけどそれだけじゃないだろう。」と言っています。従業員が作業員にひとつひとつの行程を責任もってしなければならないと意識させることに努めると、その熱意が伝わり、意欲をもって作業するようになりました。そうすると、従業員も益々働く意欲と情熱で支援するようになりました。また、作業員の意識も障がいがあることで他者から守ってもらうという姿勢ではなく、プロとしての意識向上につながっていきました。その成果があってB型事業所からA型事業所に移り、更には自立できるまでに成長し、結婚して家庭を持った支援者もいます。弊社は作業員である障がい者への仕事を提供するだけではなく、彼らを一般企業に就職できるまでに育てていくことも使命だと思っています。このように、社長は従業員と作業員の橋渡しをするのが役目であり、従業員は作業員を育てることで自身も成長しているのではないかと思います。

岡田　なるほど、人材の育成にはエネルギーがいりますが、うまく軌道に乗りましたね。社長という立場は従業員と作業員の潤滑油的な存在ですね。大変感銘いたしました。ところで、中田さんには「夢」はありますか。

中田　そうですね。弊社で生産から販売まで一貫して行える商品開発ができたらいいなと思っています。将来的には開発した商品を〝自社ブランド〟として道の駅などに並べることが「夢」です。

岡田　〝自社ブランド〟の商品開発に商工会をご利用いただき、その夢を是非実現させましょう。最後にA・S・Kの名前の由来をお聞かせ下さい。

中田　**A**はありがとう
Sはしあわせ
Kは感謝
です。この3つの言葉は弊社の宝で、大切にしていこうと思っています。

岡田　いい言葉の意味が込められて素敵ですね。本日は大変お忙しい中、誠にありがとうございます。それでは御社のますますのご発展と今後のご活躍を心からお祈り致します。

経営力アップ講座

商工会では、10月13日に㈱浜野製作所　代表取締役CEO 浜野 慶一氏を講師にお招きし、経営力アップ講座を開催しました。

浜野社長からは、実父の死によって会社を引き継いでから、様々な困難に直面しながらも会社を飛躍させ、現在安倍総理を始めとする大臣の方々やトヨタ自動車など日本を代表する企業の役員の方々が視察に訪れるなど産学官連携のモデル企業となった経緯などをお話しいただきました。

実際に幾多の困難を経験し、会社を飛躍させた浜野社長の話の内容にはとても重みがあり、参加者の方々にとって非常に有意義な講習会となりました。

事業継承セミナー

事業承継の現状と事業承継対策

商工会では、12月14日に石川県事業引継ぎ支援センターの多田久俊氏 及び 税理士の永井奈緒美氏を講師にお招きし、事業承継に関する講座を開催いたしました。多田氏からは「センターでの取り組み事例からみた事業承継の現状と準備の必要性」と題して事業承継を取り巻く環境、実際の支援事例などを紹介しがら、事業承継の必要性とセンターの活用方法など。永井氏からは『税務面からみた事業承継対策』と題して税理士の視点から法人成りや消費税、贈与税、相続税などの事業承継に係る税負担を軽減するための対策について学びました。

平成30年 新春 経営 講演会

「地域を元気に！新たな価値の創造」

講師 全国商工会連合会・全国商工会青年部連合会顧問
参議院議員 宮本 周司 氏

去る一月六日(土)、かほく市高松産業文化センター一階大ホールを会場として、全国商工会連合会・全国商工会青年部連合会顧問である参議院議員の宮本周司氏をお招きし『地域を元気に！新たな価値の創造』と題して新春特別講演会を開催した。

最初に先の参議院議員選挙において尽力していただいたお礼を述べ、現在与党と野党併せて七百人以上いる国会議員の中で唯一の中小企業支援専門の国会議員であると自己紹介された。

また国会議員の仕事に触れ、通常国会、臨時国会、特別国会の会期や内容を説明し、参議院は解散がなく法律を作ることができるとした。

次に政府がどのような未来像を持っているかを年明けに放映された政府広報のCMを例にして解説された。

CMの内容は次の五つの物語形式で表現している。①主人公(上白石萌音)が朝、ドローンが宅配してくるとカメラが主人公を本人認識し荷物を受け取る。②おばあちゃんが遠隔診療される。③人口知能を搭載した冷蔵庫が食事のレシピを教えてくれる。④主人公がよろずやで買い物をしてスマホで決済する。⑤無人自動運転のバスがきて学校へ登校する。主旨は今後人口減少が進んでいる日本において人手不足を人口知能で補っていく近未来の日本を描いている。

次に消費動向に触れ、戦後間もない高度成長の下支えした過去の『三種の神器』の変遷を解説し、最新『三種の神器』は『ロボット掃除機』、『全自動洗濯乾燥機』、『食器洗い機』であり今の消費を象徴している。戦後日本は焼野原から復興し、日本のモノづくりの技術で高度成長を支え、世の中にないものを開発し、モノを消費することで新しいモノを生み出してきた、これがモノ消費である。

今の子供は先人達のおかげでモノに囲まれモノがあふれた。モノの価値を考えなくなったのは4・5年前からであり、近年小売業の売上が上がっているのはコトに価値を感じてお金を使っているのが『コト消費』である。

『コト消費』を2つに分けると、一つは旅行、スポーツ、レジャー体験等経験にお金を使うことであり、もう一つは新しい価値をもたらしている『コト消費』の延長でモノが売れているものである。代表されるのは『ロボット掃除機』で勤労に疲れ気分転換して休みは旅行したい、その欲求に対して休みの間に掃除してくれることが価値である。

またデフレ経済と呼ばれている時代にはユニクロやファーストフード店などは低価格になったが、炊飯器は1万円から7万円になっても売れているのは、単にお米を炊く道具からおいしいブランドのお米が食べられるような仕上がりになる炊飯器だからである、これが『コト消費』である。

また観光産業の業績が上がってきているが名所旧跡だけではない工事現場も観光拠点となっている。例えば沖ノ島諸島では魚介類(バイ貝)が有名で観光客が訪れている。船で沖に出ると岩の先端に夕陽が沈みローソクのような感じになる観光名所がありオーロラを見に行くような感じで、ろうそく岩に感動するように、お金を払って感動することも『コト消費』である。

かほく市にたとえれば日本の太平洋側からは海に沈むきれいな夕日が見れないので『かほく市の夕陽』も観光ツールになり、かほく市の取り組みの中で形にしていくという感覚を取り入れることが大切である。精神的な満足を与えることや、かほく市でしか体験できないことが、『コト消費』を考えたとき観光の商材になるかもしれない時代になっている。

最後に行政、議会、商工会、かほく市民の多くの皆様が明日のかほく市がもっと良くなるようになるようにいろんな努力や活動、地域づくり、特産品づくりをすることが大切である。一方、経済政策に温かい風を送るために仕事をさせていただいているが、引き続きしっかり努めていきたい。『森友・加計問題』などのように情報がすべて正しいことはない、情報が氾濫し、これから超スマート社会に移っていく中で正確な情報をつかむことが大切であり、精神的な満足を満たすような『コト消費』を題材にして、町づくり、特産品開発を推し進めていってほしいと述べた。今後は中小企業支援専門の参議院議員としてしっかり後押し、皆さまにとって幸多き輝ける市政になるようにお祈りしていますと述べ降壇した。

かほく四季まつり

平成30年1月20日(土)～2月18日(日)まで

冬の味くらべ あったか雑炊・鍋まつり

★あったか雑炊・鍋を食べて、お食事券をGETしよう！

冬の味くらべWチャンス！

★雑炊・鍋を食べて、ラリーカードに、にゃんたろうスタンプを5つ集めて、かほく市共通商品券(1,000円分相当)をもらおう!!

※カードの詳細は、「店めぐりラリーポイントカード」をご覧下さい。(価格は全て税込みです)

商工会会員の皆様へ
おすすめする

傷害共済

仕事中・生活のあらゆるケガに対応

月々2,000円の掛金で

入院共済金	1日につき 10,000円	(加入I型の場合)
通院共済金	1日につき 4,000円	(加入I型の場合)
死亡共済金	最大 500万円まで	(加入I型の場合)

(加入型によって共済金額は違います)

例えば(加入Ⅰ型の場合)
廃屋の解体で階段から落ちて右手関節捻挫、右ひざ関節捻挫で通院36日の場合
通院36日×4,000円＝144,000円 となります。
加入の手続き、制度の詳細は、かほく市商工会へお問い合わせ下さい。